

市町村との意見交換会の概要

資料4

平成31年1月12日

関西広域連合本部事務局

- | | | |
|----|----|---|
| ■日 | 時 | 平成30年12月25日（火）15:40～17:27 |
| ■場 | 所 | 大阪府立国際会議場 10階 1001-2会議室 |
| ■出 | 席者 | 別紙名簿のとおり |
| ■内 | 容 | 【第1部】
1 文化の力による地方創生について
2 意見交換
【第2部】
1 関西広域連合の平成31年度の重点取組について
2 「2025大阪・関西万博」に向けて
3 「ワールドマスターズゲームズ2021関西」に向けて
4 意見交換 |

【第1部】

- 1 文化庁から「文化の力による地方創生」と題して、文化庁の京都移転の意義や取組について説明
 - 2 意見交換における主な発言概要 ○市町村長からの意見 ◆文化庁からの意見
- 島田 大阪府河内長野市長
- ・ 文化の力による地域の活性化、特に観光振興と一緒に力を入れていきたい。
 - ・ 文化財というのは、その維持に非常にお金がかかる。お金が回る仕組み、文化財をどう活かしていくかという仕組みを考え、それにより文化財を維持管理できるような体制を構築するべきではないかと考えている。
 - ・ 文化庁の京都移転を契機に共にこれらの仕組みを考えていきたいと考えているので、よろしく願いしたい。
- ◆ 村田 文化庁次長
- ・ 文化庁としてもいろいろな知恵を出していかなければいけないと思っている。また、自治体や民間の皆様ともぜひ一緒になって、研究をしていきたいと思っている。
- 山中 兵庫県芦屋市長
- ・ 文化庁の移転について、その意義を説明されたが、現在の課題としてはどのようなものがあると認識しているのか。
- ◆ 村田 文化庁次長
- ・ 文化庁は国の機関として、他の省庁、国会、自治体との調整をどのようにしていくのかということがある。内部的にはテレビ会議システムなどICTの活用である程度埋めることができる。一方で、自治体や団体等の方々とのコミュニケーションをどのように確保していくのかについては、これから考えていかないといけない。ぜひ広域連合のお知恵も借りたい。
- 阪口 大阪府高石市長
- ・ 関西は歴史の宝庫であり、文化庁の京都移転は大変心強い。

【第2部】

1 連合長及び各委員等から関西広域連合の取組等について説明

2 意見交換における主な発言概要 ○市町村長からの意見 ◆広域連合からの意見

広域インフラについて

○ 藤原 兵庫県伊丹市長

- ・ 基礎自治体や府県単位でもおさまらない課題が出てきているという観点から関西広域連合が設立され、関西全体の立場でどうすればいいかを議論し、広域的な防災や観光や産業振興等々取り組んでいただくことに、まず感謝したい。
- ・ こうしたそれぞれの防災、観光、産業といった政策目的を横に貫くテーマとして、広域的な交通政策というか、ネットワークをどうするかということが大事ではないか。関西全体の行き来をどうするのか。また、国際的な海外との交通ネットワークをどう組むかということが今後大事だと考えている。
- ・ 空港のネットワークでいえば、全国的、あるいは全世界的なネットワークもつながってくるので、ぜひ、狭い意味での地域利益ということを超えて、広域的に関西全体、あるいは日本全体にとってどうすればよいのかということを中心に議論いただきたい。
- ・ また、関西では、2025年大阪・関西万博まで大規模なイベントが続くが、これらに合わせて、どのようにして関西に世界から多くの人に来てもらうかということを中心に議論いただきたい。

◆ 井戸広域連合長

- ・ 昨日、3空港懇談会が開かれたが、ここでも今後の3空港の基本的な方向付けをどのようにするのかを議論することとなっており、基本にご指摘のように広域的な見地から検討を進めることになると考えている。

広域観光・文化・スポーツ振興について

○ 島田 大阪府河内長野市長

- ・ やはり我々が期待するところは、今話題になっているインバウンド、つまり訪日外国人観光客をどう獲得していくかということ。
- ・ 市町村としては、関西広域連合のお力で、いろいろなアドバイスをいただきたいと考えている。

◆ 南本 広域観光・文化・スポーツ振興局長

- ・ 関西においても、大阪・京都に集中しがちな外国人観光客をより広い範囲に周遊していただくことを重点的に取り組んでいるところである。
- ・ 関西には、様々な知見があるので、例えば、これらの知見を関西観光本部に集約することにより先進事例を広めるなどの取組を今後進めていきたい。

広域防災について

○ 阪口 大阪府高石市長

- ・ 大阪府北部地震、台風21号、西日本全体であった豪雨、こういうときのカウンターパートでの支援というのは、本当にありがたい。広域行政が大切であることを改めて感じたところである。

- ・ 市町村レベルでも自治体間のカウンターパートがあるが、都道府県の動きと連動していくことが大切である。

◆ 井戸広域連合長

- ・ 関西広域連合もブロック単位で連携しており、例えば首都圏や九州知事会とも連携をしている。できるだけ広域で同じような被害を受けない地域からの応援をいただくための対応をしているところである。特に関東の都県とは、毎年のように防災訓練も現地で行っている。このような連携体制の構築について、今後も努力をしていきたい。

広域産業振興について

○ 東坂 大阪府大東市長

- ・ 2025年まで大きなイベントが続き、上昇気流であるが、2025年以降に、いわゆるそのレガシー効果を持ってないがために反動が来ることを今から想定しながら、対策に力を合わせて歩まないといけないと感じている。
- ・ 7年という期間は、技術の進歩でいうと随分期間があるので、AIや様々な技術進歩を見越しながら、レガシーの活用を検討していきたい。
- ・ 一番お願いしたいのは、広域連合で力を合わせて、さまざまな企業の誘致や研究所、ラボの誘致をこの関西に、この7年間集約できるような形で団結していければと思っている。
- ・ 技術で一歩先に出ればレガシーの未来も見えてこようと思うし、2025年以降についてもそれらを活用して、更に飛躍できるような素地ができるのではないか。基礎自治体の弱いところについて、広域の皆様方と一緒にベクトルを合わせさせていただいて、関西の未来に明るい2025年以降を構築できればと思うので、検討をいただきたい。

◆ 濱田副委員

- ・ AI、人工知能ももちろん、特に関西・大阪エリアには、医療や健康にかかわる産業や先端研究が集積しており、これは非常に強みになるのではないか。また、これをどう広域連合構成府県市と連携しながら、どのようにてこ入れを図るか、応援をしていくかというのが大事なテーマだと考えている。
- ・ また、特に中小企業向けということでは、各地にある公設の研究所、試験研究機関をできるだけ経済界の皆さんに使い勝手がいい形で連携をしていくということが取り得る手法であるが、現実的には、いろいろな課題もあるので、経済界とも話しながら検討しているところである。

総括

◆ 井戸広域連合長

- ・ 関西全体としての企画や調整も広域連合が担わなければならない役割であり、その中で、府県と市町村、市町村と広域業務について、しっかり連携をしていきたい。
- ・ 2025年の万博までは、大きなイベントが目白押しであり、関西の底力を見せるいい機会である。
- ・ 2025年の区切りを迎えた後も、しっかりとした対応ができるような努力を関西全体として取り組んでいきたい。

市町村との意見交換会 出席者名簿

(関西広域連合)

広域連合長	い と 井戸	としろう 敏三	(兵庫県知事)
副広域連合長	にさか 仁坂	よしのぶ 吉伸	(和歌山県知事)
委員	みかづき 三日月	たいせう 大造	(滋賀県知事)
委員	にしわき 西脇	たかとし 隆俊	(京都府知事)
委員	あらい 荒井	しょうご 正吾	(奈良県知事)
委員	ひらい 平井	しんじ 伸治	(鳥取県知事)
委員	よしむら 吉村	ひろふみ 洋文	(大阪市長)
副委員	はまだ 濱田	せいじ 省司	(大阪府副知事)
副委員	うんの 海野	しゅうじ 修司	(徳島県副知事)
副委員	うえむら 植村	さとし 哲	(京都市副市長)
副委員	はざま 狭間	えみこ 恵三子	(堺市副市長)
副委員	てらさき 寺崎	ひでとし 秀俊	(神戸市副市長)

(市長会)

近畿市長会会長	やまなか 山中	けん 健	(兵庫県 芦屋市長)
近畿市長会副会長	しまだ 島田	ともあき 智明	(大阪府 河内長野市長)
近畿市長会理事	ひがしさか 東坂	こういち 浩一	(大阪府 大東市長)
近畿市長会理事	たけうち 竹内	みちひろ 通弘	(兵庫県 洲本市長)
近畿市長会相談役	さかくち 阪口	しんろく 伸六	(大阪府 高石市長)
近畿市長会相談役	もちづき 望月	よしお 良男	(和歌山県 有田市長)
近畿市長会相談役	ふじわら 藤原	やすゆき 保幸	(兵庫県 伊丹市長)

(町村会)

大阪府町村長会	副会長	わだ 和田	きちえ 吉衛	(大阪府 忠岡町長)
兵庫県町村会	会長	あんざこ 庵谷	のりあき 典章	(兵庫県 佐用町長)
鳥取県町村会	会長	もりやす 森安	たもつ 保	(鳥取県 伯耆町長)